

NICT成果物への DOI付与の取り組み(現状)

NICT 時空標準研究室
関戸 衛

DOI(Digital Object Identifier)とは

識別子(DOI name)からデジタルオブジェクトが存在するURIに変換するサービス

doi: 10.1007/s00190-
021-01479-8 25



[https://link.springer.com/
article/10.1007%2Fs00190
-021-01479-8#citeas](https://link.springer.com/article/10.1007%2Fs00190-021-01479-8#citeas)

DOIの構文

DOI:<prefix>/<suffix>

DOIの付与手続き

- JaLC (Japan Link Center)

- DOI財団から、国際的な識別子であるDOI登録機関 (RA) に認定された日本で唯一の機関
- 共同運営機関：JST科学技術振興機構、NIMS：物質・材料研究機構、NII:国立情報学研究所、国立国会図書館
- 正会員：「一般会員」と「検索会員」
 - [NICTは正会員prefix\(10.24812\)](#)と[準会員prefix10.17591 \(WDS\)](#)を取得している。WDSについてはデータセットにDOIを付与する実験と実証で、文献・書籍類のDOI付与・登録のためのしくみはない。
- 準会員：準会員はとりまとめ機関である正会員を通し、正会員が設定した条件に従ってコンテンツにDOI名を登録することができる。

Motivation

- 2021年3月末に鹿島34mアンテナの解体が終了し、鹿島のVLBIグループは解散となった。
- 日本のVLBI研究開発において鹿島のグループが果たした役割は大きなものがあり、その歴史的足跡を記録することは重要。
- VLBIの技術開発センターの指名を受け（1990年 IERS, 2000年 IVS）技術開発センター (TDC) ニュースを発行してきた（吉野泰造、近藤哲朗）。
- これまで発行されたTDCニュースはISSN番号を取得して、国会図書館に保管されているものの、アクセスのバックナンバーに対して、DOIを付与することを考えている。

IVS NICT Technology Development Center News Index
ISSN 1882-3440

希望のニュースを見るには表中のNo. (リンク付きタイトルページ) または "○" をクリックして下さい
No.24より、ISSN番号を取得しました。。

No.	HTML版	PDF版	発行日	復刻版作成日	備考
11	○	○ 13ページ、390KB	1991年10月	1998年6月	唯一の日本語版
1	○	○ 13ページ、314KB	1991年10月	1998年6月	以下英語版のみ
2	○	○ 13ページ、330KB	1992年4月	1998年6月	
3	○	○ 15ページ、301KB	1992年8月	1998年6月	
4	○	○ 6ページ、182KB	1993年5月	1998年6月	
5	○	○ 4ページ、108KB	1994年9月	1998年6月	
6	○	○ 19ページ、522KB	1995年4月	----	
7	○	○ 24ページ、1093KB	1995年10月	----	
8	○	○ 27ページ、967KB	1996年6月	----	
9	○	○	1996年10月	----	

- 1990年 CRLがIERS技術開発センターに指名
- 2000年 IVSのVLBI技術開発センターに指名
- 1991年～2021年（31年間）発行

NICT（電磁波研究所）内のDOIを希望する成果物

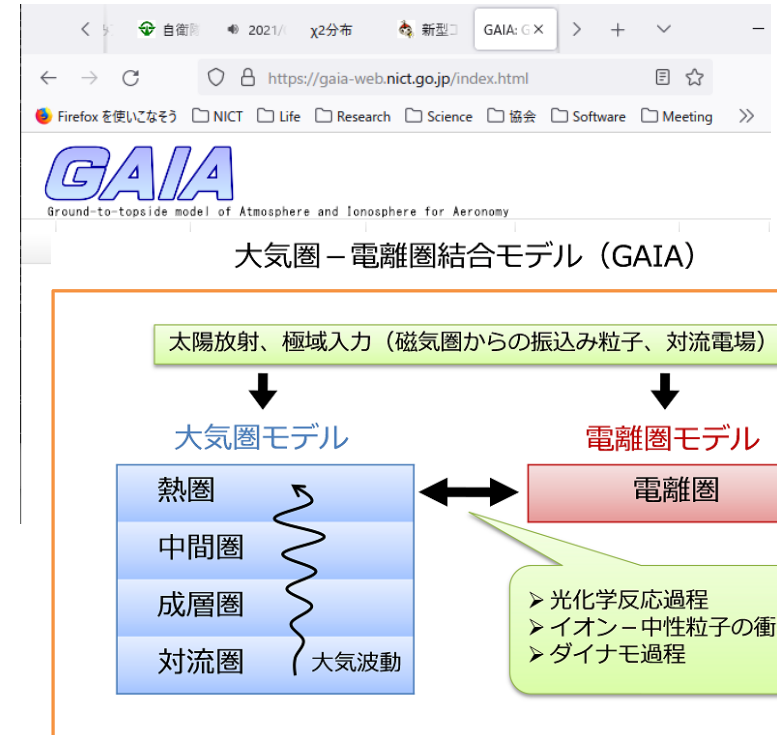
• 電磁波研究所 宇宙環境研究室

- 電離圏シミュレーション（GAIA）のデータをDOIを付与して公開する。
- WDSのPrefixのもとでDOI(10.17591/xxxx)を得る方向

• 情報通信研究機構 研究報告（旧季報）

• Journal of the National Institute of Information and Communications Technology.

- NICTの広報企画室長が個人的努力によってJ-Stageより公開
- 情報通信研究機構報告（電波研究所・通信総合研究所 季報）
 - Vol.1(1955)-Vol.65(2019)
- Journal of NICT (J.RRL, J. CRL)
 - J.RRL, Vol. 1, J.NICT Vol. 59-64
- Ex.) DOI: 10.24812/nictjournal.64.2_001



TDC-Newsについて,今後の

- 永続的な掲載場所を維持することを第一目標とする
- 検討される選択肢
 1. NICTの正会員としてのprefixから公開する方策を探る（データのアーカイブ場所はどうするか？）
 2. ZENODO (<https://about.zenodo.org/>) などOpenSouceの公開場所からDOI付与して公開する。

謝辞

NICTのデータ・出版物に対するDOI付与に関して以下の方々にいろいろと情報を教えていただきました。

- 村山泰啓さん：NICTのJaLC正会員を取得し、NICTにおいてWDSを推進しデータへのDOI付与を進めてきた。
- 滝澤修さん：NICTの出版物を電子的にアクセス可能にするために尽力し、DOIを付与・公開。
- 陣 英克さん：電離層シミュレーションデータにDOIを付与し公開すること計画している。